

小規模多機能型居宅介護施設 きやま虹の家「サービス評価」 総括表

法人名	若狭町社会福祉協議会	代表者	香川 哲夫	法人・事業所の特徴	若狭町初の「民家を改修した小規模多機能ホーム」であり、利用者さんには住み慣れた自分の家と同じような感覚で過ごして頂くことができる。また、常勤の正看護師が配置されており、機能訓練や褥瘡予防、体調管理等の助言などにも力を入れている。 また、地域の方には以前からのご近所づきあいのように、とれたての季節野菜、果物等の差し入れがあったり、そのいただいた収穫物で作ったお菓子でお礼をするなど、温かい交流を続けている。
事業所名	小規模多機能ホーム きやま虹の家	管理者	中畑 奈々江		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	3 人	人	1 人	人	人	5 人	人	10 名

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者個々での活動の幅を広げることかできるよう、畑や裁縫など得意なことを活かした取り組みを行っていく。 また、職員の質の向上を目的に研修や勉強会なども積極的に取り組んでいく。	利用者本人の得意な事や続けていきたい事に力を入れ、午前の活動として取り組むことができた。 他事業所への見学や情報交換会などの機会を設け事業所の改善点などを話し合えた。	・利用者のそれぞれ得意分野を生かした活動が出来ている。 ・機能向上維持を目指し、改善計画もしっかり立てられている。	利用者それぞれの課題に対して細やかなケア行い、サービスに対する満足度を上げる。 また、在宅生活を支えていくため、日々の情報共有を密に行い関係機関とも連携を図る。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所内で過ごしやすいよう換気、清掃、整頓に力を入れ、手洗いや消毒等、感染にも注意し心地の良い環境作りを行う。	感染予防のため、マスクの着用、消毒は継続して行った。 また、転倒の危険がないよう整理整頓を心掛け気持ちよくすごしていただけた。	・行事、イベントの周知はのぼり・看板等で出来ている。が、居室内での活動は少し狭い感じがする。 ・何か特徴があるといい。	家庭的な造りを活かし、過ごしやすい環境で活動していただけるよう家具の配置や手すりなどの環境整備を行う。 また、特徴のある事業所を目指し、利用者や家族の意見や要望を基に検討する。
C. 事業所と地域のかかわり	・まんまん一座への月 1 回の参加 ・虹の家だよりの配布 ・月 1 回のにじカフェの開催	まんまん一座への参加により普段会わない方と話しをする機会があった。また、虹の家だよりを手配りで配布し、顔なじみの関係となる方も増えた。	・地域とは密接な関り合が出来ていると思うが、相談所としての機能は不透明。	・まんまん一座への月 1 回の参加 ・虹の家だよりの配布 ・月 1 回のにじカフェの開催 ・月 2 回の開放日の開催
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	気がかりなお家への訪問を今後も継続して行い、場合によっては必要な関係機関に繋げていく。	お一人暮らしの方への訪問や近所の方との情報交換を行った。また、利用者の方と地域の方との繋がりを知るため、訪問を頻回に行ったことで、日々の暮らしが今まで以上に知る事ができた。	・地域の中に利用者が参加し交流できる場を設けている。 ・事業所、利用者が意見を言える場が必要ではないか。	気がかりな方への訪問を継続して行い、地域の福祉相談所として活動する。 気山地区だけではなく、三方地域の方への訪問も行う。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営委員さんのより多くの意見をいただけるような時間帯を検討する。 また、にじカフェや開放日に参加していただき事業所を知って頂ける機会を設ける。	運営推進会議を 19 時からとしたが、仕事の都合等で参加者は少なかった。また、にじカフェへの参加も少数であった。	・事例検討会までは出来ていないが話し合いは出来ている。	職員や事業所と今まで以上に関わりを持ち運営推進会議の場に委員さんも参加していただけるよう、開催日時についても検討する。
F. 事業所の防災・災害対策	防災意識を高めるため、避難のタイミングや避難場所の確認、備蓄用品などの保管を行う。年 2 回の防災訓練や災害訓練、火災報知器の点検も継続して行う。	年 2 回の避難訓練、災害訓練については行うことができたが、事業所だけでは分からない事もあり課題が残った。火災報知器の点検、交換も行った。	・地域防災会議への参加は必要ではないか（5 月、3 月） ・災害時は事業所の活動に期待する。	災害時に備え、定期的な火災報知器の点検や消火器の確認を行う。また、避難訓練や災害訓練を年 1 回は実施する事で、利用者、職員の意識を高める。